

平成18年度

湯河原町のバランスシート

財政課 内線241

このバランスシートは、町の「資産」、すなわち道路や公園、学校といった社会資本整備の状況や、その整備のために借りた地方債（借入金）等の債務で、将来返済を必要とする「負債」の状況などを総務省方式により表したものです。

1 バランスシートから分かること

(1) 資 産

借方の資産は、253億7,700万円（対前年度0.16%増）で、資産のうち有形固定資産が約9割を占めています。昭和44年度から町で行った普通建設事業の決算統計の数値により取得額を算出し、土地以外の資産について区ごとに減価償却を行ったものです。道路や公園等の「土木費」の資産が一番多く、学校や社会教育、文化施設などの「教育費」が続いて多くなっています。

(2) 負 債

借方の負債は、109億500万円（対前年度2.28%増）で、平成20年度以降に返済する予定の町債を固定負債として「地方債」（73億7,600万円）に、平成19年度中に返済しなくてはならない町債を流動負債として「翌年度償還予定額」（7億7,400万円）に計上しています。町債の借入額が多いのは、総合運動公園、東台福浦小学校などの資産の形成に伴う事業により借り入れたもので、これらは長期にわたって利用されますので、将来にわたり少しずつ返済していきます。これは、現在利用する人と将来利用する人が、公平に負担しあうということです。

また、退職給与引当金は、年度末に職員全員が退職したと仮定した場合の支給額を引当金として計上しているものです。昨年度より、支給率の上昇により増額となっています。

(3) 正味資産

借方の正味資産は、144億7,200万円（対前年度1.38%減）で、減額となった主な要因は、前述の負債における退職給与引当金の支給率上昇に伴うものです。「国庫支出金」と「都道府県支出金」は、借方の有形固定資産の取得の際に財源となったものです。「国庫支出金」と「都道府県支出金」は借方の有形固定資産の減価償却にあわせて償却します。「一般財源等」は貸借の差額から求め、これは民間企業でいう資本に当たります。

2 バランスシートからの分析（社会資本形成の世代間負担比率）

(1) 現世代負担比率（正味資産÷有形固定資産）×100=61.53%（前年度62.23%）

これまでの世代によって既に負担された割合で、将来世代への負担を考えた場合、負担比率が高い数字であることが望まれます。

(2) 将来世代負担比率（負債÷有形固定資産）×100=46.36%（前年度45.22%）

将来返済しなければならない分の割合で、負担比率が低いほど将来世代の負担が少なくて済みます。